

二〇一七年一〇月二〇日

千布団幼な二人のつむじ見ゆ
水みくじ浮かべし御池澄めりけり

なつき
更紗

二〇一七年一〇月一九日

句座親しそれぞれの音ひよんの笛
立ち話秋の蚊打ちてなほ続く
山上の古刹の殊に紅葉濃し
残念石包容したる蔦紅葉

たか子
やよい
宏虎
菜々

二〇一七年一〇月一八日

紅葉冷大道芸に客まばら
どんぐりに顔描く子らの百面相
睡蓮の葉を持ち上げて鳩浮かぶ
早瀬きて岩に張り付く散紅葉

さつき
智恵子
さつき
やよい

二〇一七年一〇月一七日

水澄みてダム湖の岩根見えにけり
役目終へ草へ口寄す祭馬
連山の翠黛消ゆる霧ふすま
里祭駆け抜く馬の泥浴ぶる
紅葉山映してダム湖深沈と
トンネルを抜けて展けし豊の秋

せいじ
なつき
ぽんこ
なつき
菜々
宏虎

二〇一七年一〇月一六日

酒蔵の樽に秋草溢れしめ
長雨や刈残されし稲田あり
秋霖や猫とぼとぼと庭過る
木犀の樹下堆く金の屑
秋霖や枝に寄り添ふ鳩の影

やよい
明日香
菜々
せいじ
三刀

二〇一七年一〇月一五日

体験の子が持ち帰る今年米
新調の包丁の切れ葱刻む
倒れ伏す稲穂を起こし起こし刈る

有香
うつき
せいじ

二〇一七年一〇月一四日

酢橘搾る今宵家族の揃ふ卓
遠足子鳥語に負けずピーチクと
信仰の友と語らふ夜長かな
まほろばの大和三山霧深し
新米炊く地の名水に拘りて
ゼッケンのほつれ繕ふ夜長かな

菜々
はく子
みどり
明日香
うつき
更紗

毎日句会みのる選・二〇一七年一〇月二二日